

# 平成22年度実績報告書

広島大学 アクセシビリティセンター

## 1. 事業名

文部科学省：障害学生受入促進研究委託事業

「中等教育と高等教育を滑らかにつなぐ、最適な評価方法とユニバーサルな教育・情報支援の研究」

## 2. 事業の実施体制

【委託者】 独立行政法人 日本学生支援機構

【研究実施者】 広島大学アクセシビリティセンター

- 佐野（藤田）真理子（アクセシビリティセンター長・教授）
- 山本 幹雄（アクセシビリティセンター・准教授）
- 岡田 菜穂子（アクセシビリティセンター・特任助教）

【研究協力者】

- 広島大学入学センター
- 広島大学エクステンションセンター
- 広島大学キャリアセンター
- 広島大学保健管理センター
- 広島南特別支援学校
- 広島中央特別支援学校
- 鈴峯女子高校
- 広島山陽学園・山陽高校
- 広島市立阿戸中学校
- 広島市立安佐南中学校
- 広島市立国泰寺中学校
- 広島市立五日市中学校
- 広島市立五日市中央小学校
- 東広島市障害者相談支援センター「はあとふる」
- 広島県立障害者リハビリテーションセンター スポーツ交流センター

### 3. 事業の趣旨

近年、障害ある学生(以下、障害学生)の大学進学の際の機運が高まっているが、実際に大学に在籍する障害学生の比率は極めて少ない。現在の比率がどの程度、低いものなのかは、詳細な分析の必要があるが、大学進学に際して様々なバイアスがかかってくることは否めない。その一因として「知る」機会の少なさが挙げられる。本学に進学してくる学生も、情報支援や教育支援の方法を知らずに入学してくるケースが少なくない。このことは、中等教育において障害やアクセシビリティ、ユニバーサルデザインに関する意識や知識のある人材が極めて少ないことを示している。障害学生本人がこのような知識を得ることも大切であるが、中等教育、高等教育双方で、障害学生が在籍しない状況でも、取組が継承される土壌づくりが肝要である。本事業では、特別支援学校および県教委等中等教育機関と本学の間で学生・教職員の人材交流・情報交換を行い、「知る」システムの構築を図り、中等教育と高等教育を滑らかにつなぐ、継続性ある最適な評価方法とユニバーサルな教育・情報支援の研究を行う。

### 4. 平成 20～22 年度事業実績

#### ① 初等・中等教育への学生学習補助者の派遣と情報交換

##### (1) 広島南特別支援学校への派遣

本学が開発した「アクセシビリティリーダー」資格取得者を、聴覚に障害のある児童・高校生が多く通う、広島南特別支援学校に、学習補助者として派遣した。近年、特別支援学校においても大学進学への関心が高まっており、具体的に大学進学を目指す学生も増えている。

<目的>

「アクセシビリティ」に関する意識・知識・経験・技術を修得した大学生を、聴覚に障害のある児童・高校生の学習補助者として派遣することで、

- 「聞こえ」に支障のない大学生とのコミュニケーションを通して、未知の環境である大学修学環境に対する関心の具体化を狙う
- 「アクセシビリティ」に対する理解とコミュニケーション支援技術に対する知識がある大学生に教わることで、多様な支援方法、コミュニケーション方法に対する理解と順応を促す
- 「アクセシビリティリーダー」の視点を通して、大学進学に関わるバイアスを検証する
- 初等・中等・高等教育・社会を滑らかにつなぐための「知る」機会の拡充における、学生派遣の効果と課題を整理することを目的とする。

<派遣実績>

- 平成20年度 2名 (夏期補習)
- 平成21年度 3名 (夏期補習)

##### (2) 障害のある小中学生の実態調査

本学が開発した「アクセシビリティリーダー」資格取得者（以下、アクセシビリティリーダー）を、東広島市障害者相談支援センター「はあとふる」、広島県立障害者リハビリテーションセンター・スポーツ交流センター「おりづる」と連携・協力し、東広島市障害児余暇活動支援事業に派遣すると共に、同事業のコーディネーターとして本学の「アクセシビリティリーダー」資格取得者を採用（市で採用）し、支援事業のコーディネート業務も行った。同支援事業は、東広島市内の障害のある児童の余暇活動を支援することで、障害のある児童の社会参加を促進するもので、福祉の外郭の事業として位置づけられているが、市内のニーズは極めて高い事業である。さらに、10月から、東広島市内の障害のある児童に対する社会的スキルトレーニングを含む家庭学習指導者を派遣する事業をスタートする予定である。

<目的>

「アクセシビリティ」に関する意識・知識・経験・技術を修得した大学生を、障害のある児童の余暇活動支援者として派遣することで、

- 「アクセシビリティリーダー」の視点を通して、大学進学に関わるバイアスを検証する
- 初等・中等・高等教育・社会を滑らかにつなぐための「知る」機会の拡充における、学生派遣の効果と課題を整理する
- 地域児童福祉への貢献を通して、地域や行政との相補的・相乗的協力関係を構築するとともに、初等教育における取組の可能性を模索することを目的とする。

<派遣実績>

- 平成20年度 4名
- 平成21年度 4名
- 平成22年度 7名

### (3) 広島市立阿戸中学校への派遣

---

アクセシビリティリーダーを、中等教育のユニバーサルデザイン化の取組を進める、広島市立阿戸中学校へ、授業中のT2・T3、学習補助者として派遣した。

<目的>

「アクセシビリティ」に関する意識・知識・経験・技術を修得した大学生を、受講者として派遣することで、

- 「アクセシビリティリーダー」の視点を通して、大学進学に関わるバイアスを検証する。
- 初等・中等・高等教育・社会を滑らかにつなぐための「知る」機会の拡充における、学生派遣の効果と課題を整理する。
- 中学校におけるUD化の取組との連携の可能性を模索することを目的とする。

<派遣実績>

- 平成21年度 8名
- 平成22年度 4名

### (4) 広島市立五日市中央小学校への派遣

---

アクセシビリティリーダーを広島市立五日市中央小学校の特別支援学級へ、学習補助者として派遣した。

<目的>

「アクセシビリティ」に関する意識・知識・経験・技術を修得した大学生を、受講として派遣することで、

- 「アクセシビリティリーダー」の視点を通して、大学進学に関わるバイアスを検証する。
- 初等・中等・高等教育・社会を滑らかにつなぐための「知る」機会の拡充における、学生派遣の効果と課題を整理する。
- 初等教育機関における支援ニーズの把握と、小学校との連携の可能性を模索することを目的とする。

<派遣実績>

- 平成22年度 2名

## ② アクセシビリティセミナー開催と人材交流・情報交換

### (1) アクセシビリティセミナー

---

「受験から就職まで滑らかにつなぐ障害学生支援」をテーマに、公開セミナーを開催した。概要は次のようなものである。なお詳細については、報告書（別添付）をまとめ500部製本し、関連機関に配布した。内容等詳細については別添付報告書を参照されたい。

【日時】：平成20年12月1日（日）13時～16時10分

【場所】：広島大学 中央図書館ライブラリーホール

【参加】：75名（広島大学教職員・学生、（広島大学以外の）大学教職員、  
中学・高校教職員、保護者）

【講演タイトル】：

「大学入試センターにおける受験特別措置について」

「広島大学におけるアクセシビリティ支援・人材育成について」

「広島大学におけるキャリア支援・就職支援について」

「障害学生の就職の現状と傾向について」

### (2) 第1回 高大連携研究会

---

次の「中等教育と高等教育を滑らかにつなぐ、最適な評価方法とユニバーサルな教育・情報支援に関する研究会」を開催し、地域レベルの連携を目的として、中等教育・高等教育機関の双方における修学支援の現状と進学促進のための課題と意見交換を行った。

【日時】：平成20年12月26日（金）14時～16時

【場所】：広島大学 総合科学部第3会議室

【参加】：広島大学（アクセシビリティセンター4名、入学センター1名、保健管理センター1名）鈴峯女子高校1名、広島山陽学園・山陽高校2名、広島南特別支援学校2名、阿戸中学校1名、安佐南中学校1名 計13名

【プログラム】：

- ① 趣旨説明
- ② 全国の高等教育機関における障害学生支援の状況
- ③ 広島大学の支援の取り組み
- ④ 高等学校における支援の取組
- ⑤ 障害のある生徒の大学進学に関する課題：意見交換
- ⑥ 研究会の今後の予定

【成果】：中等教育機関における修学支援の継続性や、学校間の連携、情報収集における課題やバイアスの要因などが報告され、意見交換がおこなわれた。また今後の情報ローカル・ネットワークづくりおよび、アクセシビリティリーダー派遣事業などについての意見交換が行われた。

### (3) 第2回 高大連携研究会

---

【日時】：平成21年3月15日（日）14時～16時

【場所】：広島大学 総合科学部第3会議室

【参加】：広島大学（アクセシビリティセンター4名、入学センター1名）、広島山陽学園・山陽高等学校1名、広島県立広島中央特別支援学校1名、阿戸中学校2名、広島市立安佐南中学校1名、広島市立国泰寺中学校1名、広島市立五日市中学校1名 計8名

【プログラム】：

- ① 研究会の趣旨と第1回研究会の報告
- ② 情報ネットワークの構築について
- ③ 大学進学・就職を含めた将来展望について
- ④ アクセシビリティリーダー（AL）の派遣（インターンシップ）について
- ⑤ 研究会参加者の範囲の検討について
- ⑥ 研究会の今後の予定
- ⑦ その他・意見交換

【成果】：中等教育が高等教育に対して期待する情報提供の在り方について意見交換がなされた。アクセシビリティリーダーの派遣に関しては、複数の中等教育機関からの要望が寄せられ、H21年度からの、派遣事業について意見交換がなされた。小学校→中学校→高校→大学と継続的に活用できる、修学支援やキャリア支援の個人ファイルの可能性についても意見交換がなされ、個人情報保護と最適な支援の関係など、課題が整理された。情報交換サイトの立ち上げにむけてのコンテンツ提案および合同進学説明会・セミナーの企画が次回研究会の検討事項となった。

### (4) 第3回 高大連携研究会

---

【日時】：平成21年5月23日（土）14時～16時

【場所】：広島大学 総合科学部第1会議室

【参加】：広島大学5名（アクセシビリティセンター4名、入学センター1名）  
鈴峯女子高校1名、広島山陽学園・山陽高校1名、広島中央特別支援学校1名、阿戸中学校1名、安佐南中学校1名 計10名

【プログラム】：

- ① 第2回研究会報告

- ② 情報ネットワーク構築について
- ③ アクセシビリティリーダー(AL)の派遣について
- ④ 今後の研究会の予定
- ⑤ その他・意見交換

【成果】：情報ネットワーク構築に関するコンテンツの具体的な内容について、意見交換が行われた。また、アクセシビリティセンターから8月に開催される予定の「合同進学説明会」のプログラム案が紹介され、具体的な内容について意見交換が行われた。アクセシビリティリーダーの派遣について、アクセシビリティセンターから現在の活動、新事業について報告がなされた。

## (5) アクセシビリティセミナー（第4回 高大連携研究会）

---

「受験から就職までを滑らかにつなぐ障害学生支援」をテーマに、公開セミナーを開催した。概要は次のようなものである。なお詳細については、報告書（別添付）をまとめ300部製本し、関連機関に配布した。内容等詳細については「別添付報告書」を参照されたい。

【日時】：平成21年8月30日（日）14時～16時30分

【場所】：広島大学 総合科学研究科 談話室

【参加】：55名（広島大学教職員・学生、（広島大学以外の）大学教職員、中学・高校教職員、保護者）

【講演タイトル】：

「障害学生修学支援ネットワーク相談事業と、障害学生支援の現状について」

「障害学生支援の入学前指導から入学後の修学支援について

—山口大学の事例を中心に—

「大学における修学支援の方法」

## (6) 第5回 高大連携研究会

---

【日時】：平成21年12月27日（日）14時～16時30分

【場所】：広島大学 総合科学部第3会議室

【参加】：広島大学5名（アクセシビリティセンター4名、入学センター1名）、鈴峯女子高等学校1名、阿戸中学校2名、広島市立国泰寺中学校1名、広島市立段原中学校1名 計10名

【プログラム】：

- ① アクセシビリティセミナー反省会
- ② 授業のユニバーサルデザイン化の取組：事例研究の紹介
- ③ 情報ネットワーク・Webコンテンツの具体的な内容について
- ④ 今後の研究会の予定
- ⑤ その他・意見交換

【成果】：8月30日に開催された「障害ある中高生のための大学進学セミナー」の反省と次回開催に向けての意見交換が行われた。アクセシビリティセンターから情報ネットワーク「UENET」が紹介され、より具体的な内容について意見交換が行われた。阿戸中学校から授業のユニバーサルデザイン化の取組「学生ボランティア活用」として、事例研究が紹介された。

## (7) 第6回 高大連携研究会

- 【日時】：平成22年7月4日(日)14時～16時40分  
【場所】：広島大学 アクセシビリティセンター  
【参加】：広島大学5名(アクセシビリティセンター4名、入学センター1名)、  
広島山陽学園山陽高校1名、広島県立広島中央特別支援学校1名、阿戸中学校  
1名、広島市立五日市中央小学校1名、高知県奈半利町・北川村教育委員会1  
名 計10名

### 【プログラム】：

- ① 日本学生支援機構 障害学生受入促進研究委託事業について
- ② 情報提供「スクールソーシャルワーカーとは」
- ③ 情報ネットワークの構築と運営について
- ④ 平成22年度 アクセシビリティリーダー派遣事業について
- ⑤ 平成22年度 広島大学オープンキャンパスについて
- ⑥ 今後の研究会の展望について
- ⑦ その他・意見交換

【成果】：各校における障害学生支援の経験や情報を伝える「情報ネットワークの構築」の完成に向けて、コンテンツ概要を確認し、当研究会の今後の展開について話し合った。また、高知県奈半利町教育委員会の岡村氏に、スクールソーシャルワーカーから見た学校についてご講演いただき、今後の研究会の取組の参考とした。また、本事業の総括として、アンケート調査を行い、課題分析を行うことを確認した。

## ③ 選抜方法の多様化と最適な評価方法の課題分析

AO入試における、パソコン受験、字幕による情報保障など、本学における入試の特別措置事例および、本学の期末試験等における特別措置の特別措置事例を整理し、最適な評価方法の課題分析を行った。詳細については、情報交換サイトUENET <http://uenet.hiroshima-u.ac.jp/> を参照されたい。

## ④ ユニバーサルな教育支援・情報支援に関する情報サイトの開設

初等・中等・高等教育・社会を滑につなぐ「知る」機会の拡充を目的として、接続の課題に特化した、情報交換サイトを立ち上げた。今後の運用の拡張性を鑑みて、CMSを導入し、情報交換サイトの立ち上げを行うとともに、これまで、初等・中等・高等教育、社会への接続に有益なコンテンツや情報交換システムについて、②の研究会等を通じて整理を進めてきた。同サイトは、②の研究会の成果を踏まえて内容を拡充し、研究委託事業終了後も継続して、運用していく予定であり、研究事業の成果なども同サイトで発信していく予定である。

UENET・URL <http://uenet.hiroshima-u.ac.jp/>



## 5. 成果

ここでは、概略について記述する。詳細については、別添付報告書およびホームページを参照されたい。

### 障害のある生徒の進学上の不安を解消する方策について

障害のある生徒の進学上の不安には、障害に起因する（１）入試の不安、（２）修学上の不安、（３）学生生活の不安、（４）就職の不安がある。

#### （１）入試の不安

受験そのものが可能なのか？ 入試の相談をすることで受験が不利にならないか？ ハンディキャップがあることで合格が難しいのではないか？ など受験生本人や保護者にとっては、入試の相談そのものに対する心理的制約も少なくない。また進路指導担当教員に相談しても、入試の特別措置に関する対応には明るくない場合が一般的であると考えられる。

#### （２）修学上の不安

修学環境の変化に順応できるか？ 配慮を期待できるか？ 相談窓口があるのか？ 授業についていけるか？ 無事卒業できるか？ など修学上の不安も様々ではあるが、大学の授業や修学に必要なスキル、期待できる配慮に対して、具

体的なイメージがしにくいところが不安の大きな要因となっているようである。

### (3) 学生生活の不安

学生生活の環境に順応できるか？日常生活をうまく送っていくことができるか？といった学生生活の不安も進学上の大きな不安要素になっている。特に日常的な介助が必要な学生や医療的ケアが必要な学生にとっては、学生生活の不安は、進路を左右する問題となっている。

### (4) 就職の不安

大学に進学する学力があっても、就職の不安から、職業訓練などの道を選択するケースや、就職できそうな分野を自ら限定しているケースが少なくないようである。進学上の不安を解消する方策は、卒業後の不安解消も視野に入れて検討される必要がある。

進学上の不安の原因には、「どこで調べれば良いか分からない」「どこに相談すれば良いか分からない」、「相談できても不安解消に至らない」といった問題がある。

まずは、「どこで調べれば良いか分からない」「どこに相談すれば良いか分からない」といった問題を解消していくことが必要である。その気になれば、障害のある学生の大学進学に関する情報誌やインターネットで検索すれば、調べる情報も少なくないが、学生本人や保護者、高校教員は、これらの情報を利用できていないケースが多い。これらのメディア利用を促進するためには、「メディア」そのものの知名度を上げていく方策が必要である。障害のある学生の進学に関する情報を、高校教職員や学生・保護者にとって身近なものになるためには、「どこで調べているか？」「どこに相談しているか？」という点に目を向ける必要がある。

本事業では、①初等・中等教育への学生学習補助者の派遣②進学セミナー・研究会の開催③情報サイト「UENET」の開設 を行った。

①の利点は、学生派遣を通じて、初等・中等教育と高等教育の間の双方向性を拡充できる点にある。障害のある児童・高校生にとっては、アクセシビリティに理解のある大学生と接することで、より身近な話題として、大学進学をイメージすることができるという利点がある。また派遣学生が初等・中等教育機関と高等教育機関との間の橋渡し役も担ってくれる。

本事業の中で、学生派遣を通して、

- アクセシビリティに理解のある学生の派遣ニーズは、非常に高いこと
- 障害のある児童・高校生にとって、進学的不安を軽減する効果が期待できると
- 小中高の教員と大学の教職員の間で相談しやすい関係を構築できること

などが明らかになってきた。

## ① 学生支援者を地域に派遣

支援ニーズがある初等・中等教育の現場に、  
アクセシビリティに関する理解と知識がある大学生を派遣

アクセシビリティリーダーをインターンとして派遣



- 広島南特別支援学校
- 広島市立阿戸中学校
- 広島市立五日市中央小学校
- 東広島市障害児余暇支援活動

- 初等・中等・高等教育機関の双方向性を拡充
- 進学に対する不安の軽減
- 進学意欲の啓発
- 実験的取組・試験的取組をサポート

①の利点は、「知る」機会の拡充という点において、関心の高い人々に対する発信力に優れている点にある。公開の進学セミナーは、新聞等で広報しやすいこともあり、学校関係者だけでなく、学生本人や保護者も気軽に参加することができ、貴重な情報収集の場となりうる。このような進学セミナーが地域で開催されることの意義は大きい。また研究会の開催は、関心の高い小中高の教員が情報交換や意見交換ができる場として機能した。このような場を設けることは、「どこで調べているか?」「どこに相談しているか?」の把握を容易にする。

本事業では、

- 取組の進んでいる大学の情報だけでは、不安は解消され得ないこと
- 上述のような、その気になれば調べることができる既存の情報発信の方法では、広く初等・中等教育に対して、進学に対する知識や意識を浸透させるには不十分かつ効率的ではないこと
- 高校と大学の間だけでなく、中学と高校の間や大学卒業後における不連続性も課題であること

などが確認された。

## ② 進学セミナー・研究会の開催

「アクセシビリティセミナー」を公開で開催  
本学の教員と広島地区の小中高教員をメンバーとする  
研究会を開催

**初等・中等・高等教育・社会の滑らかな接続に関する研究会**



- 初等・中等・高等教育機関の双方向性を拡充
- 進学に際したバイアス・課題を整理
- ユニバーサルな教育支援方法の検討
- 最適な評価方法の検討

①は、初等・中等教育と高等教育の双方のニーズに対応できる情報サイトとして企画されたものである。①や②の取組と連動して情報発信・情報共有を進めることで、効果的に「どこで調べれば良いか?」「どこに相談すれば良いか?」という課題の解決を、まずは地域レベルで試みている。

本事業では、小中高の教員の視点を交えて、オンサイトで

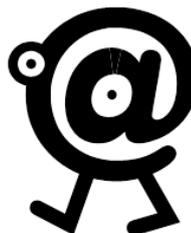
- 大学側から提供して欲しい情報
- 教員間で共有したい情報
- 利用しやすいシステム

などについて意見交換がなされた。

詳細は、情報交換サイトUENET <http://uenet.hiroshima-u.ac.jp/> を参照されたい。

### ③ 情報交換サイトの構築

本学の教員と広島地区の小中高教員をメンバーとする研究会でコンテンツ内容を検討。



- 大学側から提供して欲しい情報を整理
- 教員間で共有したい情報を整理

#### 高校・大学間における円滑な情報共有について

高校・大学間の円滑な情報共有に関しては、関心の高さに応じた戦略が必要である。関心が高い場合は、情報交換の機会や手段を拡充することが有効である。

オンサイトでの情報共有も有効な手段ではあるが、ニーズにあった情報を入手することは容易ではなく、オンサイトの情報を有効に利用できていないようである。オンサイトの情報共有に加えて、顔が見えるネットワークの構築、口コミ情報の拡充が必要である。

顔が見えるネットワークの構築には、物理的制約が少ない地域単位での取組が重要である。上述の本事業の取組①②③は、オンサイトの情報と顔が見えるネットワーク構築を同時に進めたものである。

関心が低い場合は、どのように、関心がある事項と関連付けていくかが重要になる。具体的なニーズが身近にある場合は、関心も高まるが、障害のある学生の在籍が未だ稀であるため、一般的な関心事にはなっていない現状がある。また、普通校では、受け入れ体制が整っていないことを事由に、障害のある学生の在籍がなかなか進まない傾向もあるようである。一方で、発達障害に関する関心は、中等教育機関でも、顕著に高くなっている。発達障害に関する取組を緒として、特別支援・アクセシビリティの取組全般へと一般化していくことや、障害学生支援を一般の学生支援・修学支援と連続した話題として明確に位置づけていくことが必要である。

円滑な支援の接続という観点では、個別のニーズや支援の経験が進学の前後で、引き継がれる仕組みがあると良く、小中高教員と大学教員双方も支援所見のようなものを作っていくことには肯定的である。しかしながら、現状では、個人情報保護の制約や、受験の際の不利益に対する不安など課題が少なくない。

## 入試上の問題について

---

### 【受験生側が感じている問題】

- 受験そのものが可能なのか？
- 入試の相談をすることで受験が不利にならないか？
- 障害があることを明示することで、不利にならないか？
- ハンディキャップがあることで合格が難しいのではないか？
- 入試に備えて、どのような準備をすれば良いのか分からない。
- どこに相談すれば良いのか分からない。
- 大学によって対応にばらつきがある。
- 入試のスタイルによって、受験しやすさの制約がある。
- 遠隔地のため事前の相談が十分にできない。

など、情報不足や心理的な制約、物理的な制約が問題としてある。これらの問題を解消する緒として、

- 入試対応の標準化
- 障害のある中高生向け修学スキルトレーニング
- 障害のある中高生向け進学ガイドの配布
- 高校教員向けのガイドブックの配布

などの取組が有効であると考えられる。

### 【入試の特別措置上の問題】

AO入試をはじめとして、近年、入試のスタイルも多様化している。センター試験の特別措置に準じて対応できるものは、比較的対応が明確であるが、試験のスタイルや障害の内容や程度に応じて、個別対応が迫られるものに関しては、課題が少なくない。

- 特別措置の申請時期が遅くなると対応が難しくなる
- 特別措置の申請時期を早く設定しすぎると、申請がしにくくなる
- 体調不良に対する対応や介助者が必要な場合、公平性の担保の観点から対応が難しい場合がある

- 回答方法に対する特別措置を講じた場合、採点の際に受験者個人が特定される可能性がある
- 回答方法に制約がある場合、公平性の担保の基準設定が難しい
- 情報保障が必要になる場合、誤訳のリスクをどのように回避するか？
- 情報保障が必要になる場合、通訳を介することの公平性判断が難しい
- 入試の際の情報支援の方法に対する慣れ・不慣れをどのように評価するか？
- 時間延長や体調不良による中断が必要になる場合、試験時間のマネジメントが難しい
- 問題と障害の特性により、回答が困難な場合の対応における公平性の評価が難しい（例：聴覚に障害がある場合のリスニング試験、全盲の場合の図示問題）
- パソコン等、支援機器を使用する入試では、支援機器のトラブル対応に労力を要する

など、入試の際は、不利が生じないようにするだけでなく有利にもならないよう公平性を担保することが必要なため、特別措置内容の判断に労力を要することが少なくない。また想定されていないケースに遭遇した場合、実際の対応が難しい場合もある。事前に可能な対応の合意形成を行うことが重要であるが、時間的制約があり、申請時期が遅くなれば、最適な配慮・特別措置は難しくなる。通訳や入試問題の点訳等が必要になるケースは稀であり、学内でこのような対応を円滑に行えるよう体制を常に維持することは容易ではない。大学毎の取組をすすめることも重要であるが、外部から入試の特別措置を支援する組織作りも必要である。これまで参考とされてきたセンター試験の特別措置内容だけでは、対応や判断に困る事例も増えてきている。詳細な事例研究を蓄積し、入試の特別措置に関するガイドライン作りを進めていくことも必要である。

- 段階的入試相談モデルの確立
- 入試に関する外部支援組織の構築
- 事例研究と理論的研究の蓄積
- 持続可能・対応可能な入試の特別措置ガイドラインの作成

などが必要であると考えられる。

## 教職員に対する障害学生支援についての情報提供、理解・啓発について

身近なニーズ、具体的な支援ニーズがないときにも、関心もてる情報提供、理解・啓発の手段を講じる必要がある。本事業では、広島地区の小中高の教員と本学教職員をメンバーとする研究会を立ち上げ、お互いの関心事と現状について意見交換・情報交換をすすめてきた。障害学生支援を特別な支援として語るとき、特別な支援であるために「私には関係ない」という意識が生じ、これが理解の妨げとなる場合が少なくない。障害学生が在籍していないから関係ない情報ではなく、身近な話題として認知することができる、障害学生の在籍の有無に関係なく必要となる情報提供を工夫していく必要がある。また取組のハードルを低くしていくことも重要である。現在提供されている情報は、始めて目にする教職員にとって、簡単明瞭なものではない場合が多い。障害学生支援を「難しいこと」「大変なこと」として喧伝することは、得策ではない。「出来そうなこと」「効果が明瞭である」情報を提供することが重要である。

- 障害学生支援・特別支援に関する情報の一般化（身近な話題との関連付け）
- 教育におけるアクセシビリティ教育・研究の推進

などが期待される。

## 6. 事業期間

平成 20 年 10 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

## 7. 別添付報告書

- 「平成 20 年度 広島大学 アクセシビリティ・セミナー報告書」
- 「平成 21 年度 広島大学 アクセシビリティ・セミナー報告書」
- 情報交換サイト UENET URL <http://uenet.hiroshima-u.ac.jp/>